



各教科・領域で資質・能力を育成する 主体的・対話的で深い学びの推進について

小中一貫教育において、前々号(第4号)で紹介したように大きく分けて6つの事に取り組みます。今回は第2弾として、各教科・領域で資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びの推進について紹介します。

学校教育全体を通して汎用的な資質・能力を育成

新しい学習指導要領では、教科ごとに見方・考え方と資質・能力が示されていますが、これとは別に、「学校教育全体を通して資質・能力を育成する」ことも求めています。これまでと異なり、学習指導要領を実現するための重要な要素として示されていると考えられます。

小中一貫教育として共通した「資質・能力」を育成するために共通の手立てを持たない場合、教員一人一人が個々バラバラのやり方をしている、育成される資質・能力が異なり、系統性もなく引き継がれることもありません。学級担任、教科担任が入れ替わればまた一つ一つ作り上げなければならない子どもが混乱することにもなります。

小中一貫教育校として共通の手立て

二宮町教育委員会では吉新一之授業力向上アドバイザーをスーパーバイザーに迎え、話し合い活動に重きを置いた「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに取り組んでいます。小・中5校が同一歩調で取り組んで2年目を迎えています。

この取組は「6つの手立て」と呼ばれるもので、二宮町の小・中学校5校が共通性と一貫性のある取組をすることで、すべての学級集団、学習集団で「主体的・対話的で深い学び」を通して資質・能力を育成する教育ができるようにするものです。

この「6つの手立て」は、あくまでも目的ではなく手段です。「共通性と一貫性のある取組」で、成果と課題を共有しながら、教師集団として、力を合わせて取り組むことができれば、資質・能力の育成が年々積み重ねられ、児童生徒のすばらしい変容が見られることが期待されます。



二宮町で取り組む汎用的な資質・能力

これからの時代に求められる資質・能力を定めて、小・中学校の全ての教育活動において、共通性と一貫性のある取り組みを通して、子どもに積み重ねられるようにする必要があります。教員全員が、授業はもちろん全ての教育活動で意識して資質・能力を養うこと、日常の学校生活において子どもも意識できるようにすることが大切です。

こうして養われた汎用的な資質・能力が、教科の枠を越えて、全ての教科で「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基盤となると考えられます。子どもが身に付けた汎用的な資質・能力を、各教科の学習で生かすことにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(見方・考え方)を通して教科等の資質・能力が鍛えられていくということにつながっていくと考えます。

二宮町で取り組む汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて励め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	令和3年9月試行